

## WinKeeper v7.5 / WinKeeper TB v1.5 共通導入時注意事項

WinKeeper / WinKeeper TB 導入時の注意事項について説明します。

### 動作環境について

マニュアルと readme で動作環境の情報が異なる場合、readme が優先されます。

#### ■ Windows10 環境でご利用されるお客様へ

**Windows10(1803) April 2018 Update**にてご利用の際は、対応したプログラムバージョンが必要となる場合があります。以下の情報を参照いただき、修正プログラムを適用してください。

<弊社テクニカルサイト>

<http://tech.chieru.net/?p=857>

※Windowsのタイムライン機能は無効化されます。ご注意ください。

### WinKeeper TB 利用シーン機能をご利用されるお客様へ

**「利用シーン」機能をご利用の際は別紙の【WinKeeper TB v1.5 (利用シーン機能) 運用注意事項】を必ずご参照下さい。**

機能利用における、重要な運用注意事項が記載されております。

### 導入環境について

#### ■ WinKeeper Server / TB Server と WinKeeper Client / TB Client が別セグメントの場合について

WinKeeper 各 Server と各 Client が別セグメントの場合、機能利用上、以下の制約が発生します。

- ・ WinKeeper 各 Server と各 Client 間で通信する Port が開いている必要があります。
- ・ WinKeeper 各 Server からと各 Client の"電源 ON"を行う場合、Port 7 番が開いていること、ブロードキャストを通すネットワーク環境が必要となります。
- ・ ユーザ様のネットワーク環境によっては、WinKeeper 各 Server と各 Client の通信が不安定になることがあります。

#### ■ 無線 LAN 環境でのネットワーク版利用について

無線 LAN 環境では、回線スピード/安定性などの事由により、WinKeeper Server / TB Server からの操作において、遅延が発生し同期処理などできないことがあります。また、リモート電源 ON 機能は使用することができません。

#### ■ WinKeeper Client / TB Client インストールにより使えなくなる機能

- ・ WinKeeper Client / TB Client をインストールした PC では対話型ログオン(ctrl+alt+delete)が無効となり、ログオンダイアログが表示されます。

#### ■ 多言語環境について

WinKeeper / WinKeeper TB は、日本語 OS 上への導入のみサポートしております。

また、ファイル/フォルダ名などに使われている言語は、全角/半角の日本語及び英語フォントのみとなります。

#### ■ WinKeeper TB におけるディスクの全消去機能利用について

WinKeeper TB Client におけるディスクの全消去機能は、UEFI モードで稼働しているパソコンで利用可能です。

### インストール・設定時の注意

#### ■ インストール時の権限について

WinKeeper / WinKeeper TB のインストールは、管理者権限(administrator)を持つユーザでログインして実施してください。

#### ■ Windows ストア アプリの制御について

Windows ストア アプリは、WinKeeper Client / TB Client にて制御することはできません。ご了承ください。

## ■ リモート電源 ON 機能 (Wake On LAN) について

Windows 10 / 8.1 の端末でリモート電源 ON 機能 (Wake On LAN) を利用する場合は学習者 PC にて以下の設定が必要です。

1. [コントロール パネル] - [システムとセキュリティ] - [電源オプション]を開きます。
2. [電源ボタンの動作の選択]を選択し、[現在利用可能ではない設定を変更します]をクリックします。
3. [高速スタートアップを有効にする (推奨)]のチェックを外し、[変更の保存]をクリックします。

※OS 再起動後に設定が反映されます。

## ■ WinKeeper Client 通信制御機能の解除

WinKeeper Client の通信制御機能は、機能上 PC のシステムリソースに負荷をかける場合があります。通信制御機能をインストールしている環境にて、システムが正常に動作しない場合は、切り分けとして通信制御機能のアンインストールを実施し、動作をご確認ください。

## ■ WinKeeper Client / TB Client のアンインストールについて

WinKeeper Client / TB Client のアンインストールは必ず、保護停止、保護終了、アンインストールの順で行ってください。

## ■ インストール実行時のユーザアカウント制御について

インストーラ実行開始時、ユーザアカウント制御画面が表示されますので、"許可"にてインストールを続けてください。また、インストーラアイコンを右クリックして「管理者として実行」を選択することも可能です。

## ■ C ドライブ以外へのインストールについて

WinKeeper Client / TB Client は、C ドライブ以外にインストールされた端末上では、正常に動作しません。

WinKeeper Client / TB Client は、デフォルトで C ドライブに対してインストールを行うため、システムドライブが D ドライブなどにある場合は、正常に復元などの処理が実行できなくなります。デュアルブート環境でご利用になる場合は、各パーティションがそれぞれ C ドライブとして認識されるように環境を作成してください。

## ■ OS のシステム復元機能

WindowsOS の「システム復元機能」と WinKeeper Client / TB Client の保護機能が併用されることで、Windows のシステムファイルの断片化が促進され、OS 起動時にエラーが生じたり、ディスクを逼迫したりすることがあります。システム復元機能は"無効"にてご利用ください。

## ■ 異なる OS 間の保護設定のコピー/適用について

WinKeeper Client / TB Client へ保護設定をコピー/適用する際、異なる OS に対して保護設定をコピーすることはできません。

## ■ WinKeeper Client / TB Client 保護実行後の動作確認について

WinKeeper Client / TB Client は保護実行後、自動で OS の再起動を行いません。最終的な動作確認は、保護実行後に必ず一度 OS 再起動を行ってから実施してください。

## ■ WinKeeper Client / TB Client 保護開始直後の OS 再起動について

WinKeeper Client / TB Client の[保護設定]から保護実行処理中に WinKeeper Client / TB Client の OS 再起動を行うと、再起動後に正常起動しなくなることがあります。通常処理は数分で完了し、完了のダイアログが表示されますので、必ず保護実行処理完了後の完了ダイアログが消えてから OS 再起動を行ってください。

## ■ WinKeeper Client / TB Client 保護実行中のスリープについて

保護実行中にスリープ機能が有効な場合、OS が不安定になることがあります。WinKeeper Client の保護実行を行う際は、スリープ状態にならないように設定した上でご利用ください。

## ■ フォルダ保護機能とレジストリ復元機能の併用について

フォルダ保護機能は、再起動毎に保護フォルダ内のファイルを元の状態に戻し、レジストリ復元機能は、再起動毎にレジストリ値を保護開始時の状態に戻します。どちらか片方のみを使用すると、データの整合性がとれなくなり、シ

システムファイルが破損するなど、システムに深刻な被害を及ぼす恐れがあります。  
ユーザ環境を復元するためにはどちらも不可欠な機能となり、システムを保護する場合は、フォルダ保護機能とレジストリ復元機能を必ず併用してください。

#### ■ 環境保護実行中の Windows Update 制限について

WinKeeper Client / TB Client による環境保護実行中は、Windows Update の自動更新は無効化されます。(※WinKeeper Client / TB Client の復元処理の中で、システムファイルの不整合が発生する恐れがあるため)  
また、Windows Update を行う際は保護を停止(もしくは終了)して実行してください。  
※保護停止の際に Windows Update を抑止する設定を外しておく必要があります。

#### ■ 自動ログオン設定時のドメイン名について

自動ログオン設定を行う場合、ドメイン名の入力ウィンドウが 20 文字に制限されています。

#### ■ 自動ログオン設定について

自動ログオン設定は Windows OS 上からも可能ですが、WinKeeper Client / TB Client が導入される環境での自動ログオン設定は、管理上、必ず WinKeeper Client / TB Client より設定してください。

#### ■ WinKeeper Server / TB Server からのリモートログオンについて

WinKeeper Server / TB Server から WinKeeper Client / TB Client にリモートログオンする場合、WinKeeper Client / TB Client の自動ログオン設定で[WinKeeper サーバの自動ログオン設定を使用]が選択されている必要があります。

#### ■ アプリケーションインストール制限機能について

本機能では、特定のインストーラプログラムによるインストール行為を制限します。制限されるインストーラは、Microsoft Installer、Install Shield の 2 種類です。プログラム実行制限機能と併用することで対応してください。(対象のインストーラプログラムの情報は、弊社サポートまでお問い合わせください)

#### ■ タブレットでの利用について

- ・ WinKeeper TB Client をタブレットで使用する場合、画面を横向きの位置で固定して回転しないようにしてください。(縦向き表示の場合、画面が正常に表示できません。)
- ・ 「サーバー接続」時にパスワード入力画面がソフトウェアキーボードで隠れてしまいますが、パスワード入力画面のタイトルをドラッグして画面の位置を調整してください。
- ・ 無線 LAN 環境でのリモート電源 ON はできません。

#### ■ システム制限について

WinKeeper Client / WinKeeper TB Client ではシステム制限を「禁止」(デフォルト)しての運用を推奨いたします。  
**※システム制限の各機能を「許可」にして運用した場合、OS の機能により設定変更を復元できない場合がありますのでご注意ください。**

#### ■ WinKeeper Server から WinKeeper Client の保護環境設定を開く場合について

WinKeeper Server から WinKeeper Client の保護環境設定を開く際に失敗する場合があります。  
WinKeeper Server が導入されている PC の Windows Defender に、「C:\PKS」フォルダを除外登録頂くことで改善できます。

#### ■ 保護実行中にロック画面の背景を変更する場合について(Windows8.1 32bit のみ)

保護実行中に WinKeeper Client のシステム制限を OFF にして、ロック画面の背景を変更した場合、ロック画面の背景が復元されません。

#### ■ インターネット一時ファイルの削除機能について

インターネット一時ファイルの削除の対象ブラウザは Internet Explorer / Microsoft Edge となります。

## チエル製品との同居について

### ■ リモートコントロールでの処理遅延について

チエル製品を含む画面転送機能を持つアプリケーションと同居した場合は、画面転送機能の処理が遅くなることがあります。その場合は画面転送ドライバが競合している可能性がありますので、WinKeeper Client / TB Client のリモートコントロール機能をアンインストールしてください。

### ■ WinKeeper Client / TB Client と他チエル製品のロック機能について

WinKeeper Client / TB Client のロック機能と他チエル製品(もしくは他社製品)のロック機能を併用しないでください。

### ■ WinKeeper Client 通信制御機能について

WinKeeper Client の通信制御機能と、他チエル製品(もしくは他社製品)の URL フィルタリング機能やポートフィルタリング機能などが同居している場合、使用するドライバ等のモジュールが競合を起し、システムが正常に動作しない可能性があります。通信制御機能をインストールしている環境にて、システムが正常に動作しない場合は、切り分けとして通信制御機能のアンインストールを実施し、動作をご確認ください。

## ウイルス対策ソフトとの同居について

### ■ プリインストールされているウイルス対策ソフトについて

プリインストールされているスタンドアロン版(クラウド版)のウイルス対策ソフトにつきましては、WinKeeper Client / TB Client と同居した場合、競合により問題が発生する可能性があります。ウイルス対策ソフトをアンインストールしてください。

### ■ 競合回避設定について

WinKeeper Client / TB Client とウイルス対策や資産管理ソフト製品を同居させている場合に、相互にシステムを監視するため端末における負荷が高まりマシンのリソースを著しく消費する場合があります。

競合回避策として、以下の設定等を適用ください。

#### 【ウイルス対策ソフト側の設定】

- ・ WinKeeper Client / TB Client インストール時に作成されるフォルダをウイルススキャンの対象から除外する。  
C:¥Windows¥KP フォルダ配下
- ・ ファイアウォールや改変対策、挙動監視などの付加機能を停止する。

#### 【WinKeeper Client / TB Client 側の設定】

- ・ ウィルス対策製品インストール時に作成されるフォルダを、WinKeeper Client / TB Client の保護環境設定より保護解除する。
- ・ ウィルス対策製品のプロセスを、WinKeeper Client / TB Client の保護環境設定より問題解決に登録する。

詳細は以下の技術情報をご参照ください。

<CHIERU テクニカルサイト>

ウイルス対策ソフトと同居する場合の対応について

<http://tech.chieru.net/?p=807>

## 例]

### TrendMicro ウィルスバスター コーポレートエディション XG / v11.0 と同居する際の注意事項

- 対応方法ファイルアクセスに関する、相互の監視の競合を避けるため、WinKeeper 及び VB Corp それぞれにて、下記の設定を施し改善がみられるかご確認ください。

#### 【VB Corp】[共通]

リアルタイム検索の保護除外対象に、以下のフォルダを追加してください。

- ・ C:¥Windows¥KP フォルダ

#### [XG / v11.0 の場合]

以下の設定を無効に設定してください。

- ・挙動監視設定
- ・イベント監視設定
- ・デバイスコントロール
- ・クライアントセルフプロテクション
- ・不正変更防止サービス
- ・ファイアウォール(ご利用の場合のみ)

#### 【WinKeeper】

以下のフォルダを、WinKeeper フォルダ保護設定画面にて“保護解除”にご変更ください。

- ・ C:\Program Files\Trend Micro

上記の設定にて、OSの動作が不安定な場合は、問題解決に下記のプロセスを登録してください。

- ・対象プロセス

<インストールフォルダ>\Trend Micro\BM\TMBMSRV.exe  
 <インストールフォルダ>\Trend Micro\OfficeScan\PccNTMon.exe  
 <インストールフォルダ>\Trend Micro\OfficeScan\NTRtscan.exe  
 <インストールフォルダ>\Trend Micro\OfficeScan\TmListen.exe

※CHIERU テクニカルサイト文書番号 524 より抜粋

URL <http://tech.chieru.net/?p=524>

## その他

### ■ 復旧時のシステムフォルダ変更について

Windows 障害時に、Windows の OS 復旧機能を使用すると、システムフォルダのファイルパスが変更になる場合があります。(例:C:\Windows > C:\Windows.000)

このような状態になった場合正常に WinKeeper Client / TB Client が動作しませんので、正常な状態へ復元してご利用ください。

### ■ WinKeeper Server / TB Server からリモート電源 ON ができない

- 1) BIOS の設定で Wake On LAN の機能が有効になっているかご確認下さい。
- 2) デバイスマネージャで NIC のプロパティの詳細設定タブで Wake Up Capabilities の値が[Magic Packet]になっているかご確認下さい。
- 3) 他電源管理ソフトにて電源管理ができるかご確認ください。
- 4) WinKeeper Server / TB Server にて、電源 ON ができない WinKeeper Client / TB Client PC を一度削除し、WinKeeper Server / TB Server および WinKeeper Client / TB Client を再起動してください。その後、再度 Server より一斉接続/もしくは Client から Server 接続して登録して実行できるかご確認ください。

### ■ ボリュームアクティベーション 2.0 について

アクティベーション処理は「保護停止」または「終了」状態で実行を推奨致します。

なお「キー マネジメントシステム (KMS)」方式の場合、180 日以内にアクティベーションを更新する必要がありますのでご注意ください。

### ■ プログラム実行管理での制限対象について

"すべてのプログラムを実行禁止"にする場合、実行禁止の対象となるプログラムは Windows スタートメニューの配下に登録されるすべてのプログラムとなります。

## ■ 保護実行中のフォルダ移動について

保護実行中は、保護設定されたフォルダを他の保護設定されたフォルダに移動することができません。

## ■ ボリュームラベルの名称変更について

ローカルドライブ(C等)のプロパティから、ボリュームラベルに文字を入力した場合、再起動後も復元されません。

## ■ 曜日が重なるタスクについて

曜日と時間が重複するタスクを作成した場合、同時刻に複数のタスクが同時に実行され、障害が発生する可能性があります。(例:「毎日/12:00」と「火曜日/12:00」で重複している) タスクの時刻や日時が重複しないように設定してください。

## ■ 異なるバージョンの Client 管理について

異なるバージョン(例:v7.5 と v7.1 等)の組み合わせによる WinKeeper Client / TB Client の一元管理はサポートしておりません。

## ■ ライセンスキーの変更について

WinKeeper Client / TB Client のライセンスキー変更機能により、登録したライセンスキーを変更することができます。この変更結果は、設定コピー機能では変更できませんのでご注意ください。

## ■ ディスクの断片化

OS 再起動による環境復元時に、新規作成/更新されたファイル等が削除されますが、年月の経過とともにディスクの断片化が進んで、ファイルやディレクトリ、MFT (マスターファイルテーブル) が正常に読み取れなくなることがあります。WinKeeper Client / TB Client を保護停止の上、定期的なディスクのデフラグメント実行を推奨いたします。

## ■ Windows 8 および Windows 8.1 以降の環境でのストアアプリについて

Windows8 および Windows8.1 以降の環境では、以下のフォルダを保護除外に設定してください。保護除外に設定しない場合、ストアアプリが使用するデータベースが初期状態に復元されてしまい、ストアアプリが起動できない状態になることがあります。

"C:\ProgramData\Microsoft\Windows\AppRepository"

## ■ 保護実行中の設定変更について

保護実行中に以下の設定を変更した時、設定変更後 1 分以内に再起動すると、設定が復元されないことがあります。以下の設定を変更した場合は必ず 1 分以上時間をおいてから再起動をしてください。

- ・ 解像度
- ・ グラフィックオプション
- ・ グラフィックプロパティ
- ・ モニターの複製/拡張

## ■ 保護実行中の (フォルダの共有設定) 設定変更について

保護実行中はフォルダの共有設定を開くことはできません。共有設定をする場合は、保護を停止して実施してください。